

## 講和談判筆記第二回本會議

明治三十八年八月十二日午前九時四十五分開會

列席者 前回ニ同シ

小村男 先ツ前回會議録ノ署名ヲ爲サン乎

「ウ井ツテ氏 然リ

(双方ノ書記官互ニ其ノ作りタル會議録ヲ出シ兩國全權委員之ニ署名ス)

「ウ井ツテ氏 一昨日ノ會議ニ於テ貴方ヨリ交付セラレタル講和條件ニ關スル書類ハ之

ヲ査覈シタリ而シテ約ニ從ヒ爰ニ其ノ各條ニ對スル回答書ヲ提出ス

(トテ佛文ニテ認メタル左ノ回答書ヲ手交ス)

### 露國回答書

第一 第一條ニ對シテハ何等ノ異議ヲ存セス帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事

上軍事上並經濟上優越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ執ル

コトヲ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ阻礙セス又之ニ干涉セサルヘキコ

トヲ約スルノ覺悟ナリ但シ露西亞國及露西亞國臣民ハ他ノ諸外國並其ノ國民ニ

現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘキハ勿論ナリ且前

述日本國ノ措置實行ノ爲メニ韓國皇帝ノ主權ヲ侵害スヘカラサルコトト知ルヘ

シ又特ニ軍事上ノ措置ニ關シテハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ日本國ハ韓國

0154

ニ隣接セル露西亞國領土ノ安全ヲ侵迫ス可キ措置ヲ執ラサルヘシ

第二、帝國政府ハ本條ノ前段ヲ承諾スルノ覺悟ニシテ露西亞國軍隊ヲシテ日本國軍隊ト同時ニ滿洲ヨリ撤退セシムルノ意向ナリ而シテ撤兵ノ細目及條件ハ追テ決定スルコトヲ得ヘシ同條ノ後段ニ關シテハ帝國政府ハ清帝國ノ主權ヲ侵迫スルノ性質ヲ帶ヒ及權利平等主義ト相容レサルカ如キ領土上ノ特權並獨占的讓與又ハ便益ニ付何等ノ主張ヲ有セサル旨ヲ聲明スルノ覺悟ニシテ帝國政府ハ之カ爲メ必要ノ保障ヲ與フヘシ右根本的原則ノ一旦明定セラレタル以上ハ露國全權委員ハ日本全權委員ニ提議スルニ第二條後段ニ關スル日本國政府ノ希望ヲ精確ニ言明セラレムコトヲ以テシ且帝國政府ニ於テハ日本國又ハ他諸國ノ利益ヲ侵害スヘキコトハ凡テ之ヲ排除セントスルノ意向ヲ有スルコトヲ宣言スルモノナリ滿洲ニ於テ公共的性質ヲ帶ヘル唯一ノ露國ノ私人的企業ハ東清鐵道ナリトス但シ同鐵道ニ關聯スル問題ハ特ニ他條ニ於テ講究シアリ

第三、帝國政府ハ本條ヲ承諾スルノ覺悟ナリ然レトモ滿洲ノ此等部分ニ於テ露西亞國及露西亞國臣民ハ同地方ニ於テ他ノ諸外國及其ノ國民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ保有ス可キハ勿論ナリトス遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ホス諸地方ニ關シ露西亞國ハ此等地方ニ對スル其ノ權利ヲ日本國ニ讓與スルノ意向ヲ有ス然レトモ同地方ニ對スル清國ノ主權及右租借ニ關シ露西亞國カ清國政府ト締結シタル諸條約ニ鑑ミ右ノ如キ讓與ハ同政府ト協商ヲ經

0155

ルニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハサルヘシ

第四、帝國政府ハ本條記述ノ主意ニ對シ全然同意ヲ表シ若シ此ノ規定ニシテ日本國提出ノ條件中ニ挿入シアラサリセハ露西亞國ハ自ラ之ヲ提出スルヲ以テ其ノ義務ト認メタリシナルヘキコトヲ聲明ス

第五、薩哈噠島ニ對スル露西亞國舊時ノ權利ハ日本國カ未タ同島ヲ領有セス又ハ少クトモ其ノ大部分ニ對シテ毫モ領有權ヲ行ハサリシ時代ニ於テ既ニ存シタリシナリ加之薩哈噠島カ甚タ淺ク且僅ニ七露里ノ幅員ヲ有スル一海峽ニ依リテ大陸ト相隔ツルヲ以テ之ヲ觀ルニ同島ハ亞細亞ニ於ケル露領ノ自然的連續ニ外ナラス故ニ露西亞國ハ同島ノ讓與ニ同意スルコト能ハスト雖同島ニ於テ廣ク海上漁業及他ノ商事的企業ヲ營ムノ權利ヲ日本國ニ許與スルノ意向ハ充分之ヲ有スルモノナリ而シテ右ノ如キ營業ノ條件ハ特別ノ取極ヲ以テ之ヲ協定スルヲ得ヘシ

第六、帝國政府ハ本條ニ對シ異議ヲ有セサルヘシト雖同條所載地ニ對スル清國ノ主權ニ鑑ミ露西亞國ハ豫メ清國ト協商ヲ遂クルコトナクシテ其ノ權利ヲ日本國ニ讓與スルコト能ハサルヘシ但シ露清兩國間ニ締約セラレタル該租借カ其ノ効力ヲ及ホス地方全部ニ於ケル個人ノ權利カ依然存續スヘキハ固ヨリ言フ俟タス

第七、帝國政府ハ主義ニ於テ本條ヲ承諾ス但シ日本國軍隊ノ現ニ占領中ナル鐵道

線ノ外ハ之ヲ拋棄スルコト能ハス而シテ右ノ條件ヲ以テ讓與スヘキ鐵道線ノ終點ハ双方合意ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要スヘシ然ルニ右鐵道線路ヲ敷設且經營スルノ特許ハ同地方ニ對シテ今尙主權ヲ保有スル清國ニ依リテ一ノ私立會社ニ與ヘラレタルモノナルコト並軍事占領ノ事實ハ毫モ同會社ノ權利ヲ侵害スルモノニアラサルコトハ之ヲ顧念センコトヲ要ス帝國政府ハ清國政府ニ向テ今日以後何時ニテモ右線路買上權ヲ行使スルコトヲ許シ且同會社ト協商スルコトハ同政府自ラ其ノ責ニ任スルノ覺悟ナリ而シテ同會社ソ所有ニ歸スヘキ買上代金ハ之ヲ日本國ニ讓與スヘシ

(備考) 露清銀行ニ本鐵道ノ敷設ヲ特許シタル露曆千八百九十六年八月二十七日(九月八日)附條約第十一款ニヨリ清國政府ハ該線路完成、開業後三十六箇年ヲ經ハ之ヲ買上クルノ權ヲ有セリ南滿洲線敷設ニ關シテハ露曆千八百九十八年六月十二日(六月二十四日)附條約ヲ以テ前記條約ヲ適用スルコト、ナセリ

第八、本條ニ對シテハ何等異議ヲ存セス鐵道會社ハ滿洲幹線並南滿洲支線中同會社ノ所有ニ殘存スヘキ部分ノ經營ニ關シテハ露曆千八百九十六年八月二十七日(九月八日)附特許條約ノ條件ヲ恪守スヘシ同特許條約第八項ニハ該線路ニ依リ輪送セラルヘキ露西亞國軍隊及軍需品ハ清國領土内ニ停留スヘカラサル旨ヲ規定

セリ

0157

第九、露西亞國ハ本條ノ規定ニ同意スルコト能ハサルヘシ抑モ軍費拂戻ナルモノ  
ハ獨リ征服セラレタル國ノミ之ヲ爲スコトナリ然ルニ露西亞ハ征服セラレタル  
國ニ非ス凡ソ一國領土カ敵ノ爲メ僅カニ攻撃セラレタルニ過キササルニ際シ該國  
ハ自ラ以テ征服セラレタルモノト認ムルコト能ハス縱ヒ日本國カ黑龍江沿海州  
全部ヲ占領シタリトスルモ露西亞國ノ活力ハ毫モ之カ爲メニ侵害セラレヘキニ  
アラズシテ露西亞國ハ尙戰爭ヲ繼續スヘシ獨リ日本國ノ戰捷軍カ露西亞國ノ内  
地ニ進入シタル場合ニ於テノミ露西亞國民ハ軍費拂戻問題ノ起リタル所以ヲ了  
解シ得ヘケム往年セバストポール陷落後ニ開催セラレタル巴里會議ニ於テタニ  
同盟列國ハ軍費拂戻問題ヲ起シ得ヘシト認メサリシ事實ハ露國全權委員ニ於テ  
日本全權委員ノ注意ヲ喚起セサルヘカラスト信スル所ナリ軍費ハ戰爭繼續ノ方  
法盡キタル國ニヨリテノミ拂戻サル、モノニシテ此ノ如キハ決シテ露西亞國ノ  
現狀ニアラス

然レトモ帝國政府ハ軍費拂戻ヲ拒絕スルト同時ニ日本國カ仕拂ヒタル費用ニシ  
テ戰爭其ノ物並露西亞國ノ損害ノ爲メニナシタルニアラスシテ戰爭ノ結果艱苦  
ニ陥リタル露西亞國人ノ利益ノ爲メニナシタルモノハ之ヲ日本國ニ賠償スルノ  
至當ナルヲ認識ス俘虜給養費病者其他ノ保護ニ關スル費用ノ如キハ即チ之ニ屬  
スルモノナリ

第十、露西亞國ハ此ノ要求ニ應スルコト能ハス國際關係ノ實際ニ於テ此ノ如キ要

求ヲ支持スルニ足ル可キ先例ヲ發見スルコトハ困難ナルモノ、如シ加之此ノ要  
 求ハ講和談判者双方カ以テ其ノ精神トナスヘキ平和的意思ト兩立スルコト難シ  
 縱ヒ中立港ニ於ケル露西亞國軍艦カ日本國ニ引渡サレタリトスルモ日本國カ之  
 カ爲メニ獲得スヘキ實質的利益ハ比較的僅少ナルヘシ又此ノ如キ條項ニ同意ヲ  
 與フルコトハ露西亞國ノ威嚴ト相容レサルモノナリ

第十一、外國ノ爲メニ此ノ如キ約務ヲ課セラル、コト是レ亦露西亞國ノ威嚴ト相  
 容レサルヲ以テ露西亞國ハ之ニ同意スルコト能ハス但シ帝國政府ハ近キ將來ニ  
 於テ太平洋ニ著大ナル海軍力ヲ維持スルノ意向ヲ有セサルコトハ之ヲ聲明シ得  
 ヘシト信ス

第十二、露西亞國ハ日本海、オコーツク海及、ベーリング海ニ瀕スル沿岸ニ於テ日本  
 國臣民ニ漁業權ヲ許與スル爲メ日本國ト協定ヲナスノ覺悟ナリ但シ右漁業權ハ  
 海洋ニ瀕スル沿岸ノミニ限リ入江及河川ニ及フコト能ハサルモノトス而シテ此  
 等方面ニ於テ既ニ露西亞國臣民又ハ外國臣民ニ屬スル權利ノ依然効力ヲ有スヘ  
 キハ言ヲ俟タス(原文ハ附屬書第一號)

小村男 然ラハ之ヲ翻譯セシメ研究ヲ加フヘシ之カ爲メ少シク時間ヲ要スルヲ以テ今  
 ヨリ直ニ研究ヲ始メ更ニ本日午後三時ニ會議ヲ開クコト、セム但シ貴方ノ便宜如何  
 ニ依リテハ延期スルモ可ナリ

「ウヰン」テ氏 今日午後三時會議ヲ開クコトニ關シテハ毫モ異議ナシ

0159

小村男 然ラハ左様ニナスコト、シ本日午後三時再ヒ此處ニ會合シ其上直ニ討議ニ入ルカ或ハ更ニ延期スルカラ決セム

「ウヰッテ」氏 如何様ニテモ貴方ノ便宜次第ナリ然レトモ明日ハ日曜日ナルヲ以テ午前ハ會議ヲ開カサランコトヲ希望ス若シ日曜日ニ拘ハラス會議ヲ開カントノコトナレハ午後ニセラレタシ

小村男 全然同感ナリ若シ明日會議ヲ開クノ必要アラハ午後三時ニ開クコト、セム

「ウヰッテ」氏 左様ナサシコトヲ希望ス既ニ我方ヨリ回答ヲ提出シタル以上何時次回ノ會議ヲ開クヘキカラ決スルハ全ク貴方ノ都合ニヨルコトナリ只明日午前ハ日曜日ノコトナルヲ以テ休會シタシト云フノミ

小村男 了承セリ

「ウヰッテ」氏 本日會議ノ要領ヲ新聞紙ニ通信スルコトハ如何ニスヘキヤ今朝露國全權委員ハ日本全權委員ノ提議ニ對スル回答ヲ交付シ今後ノ會議ハ日本全權委員ノ都合ヲ以テ決スル日ニ開カルヘシトノ主意ニテ通信スルコト、センカ

小村男 可ナリ

(爰ニ於テ左ノ如ク通信文ヲ作り互ニ同意ノ上之ヲ發表スルコト、ス)

### 新聞通知文

八月十二日土曜日午前ノ會議ニ於テ露國全權委員ハ一昨日日本全權委員ヨリ提出セラレタル條件書ニ對スル回答ヲ書面ニテ交付セリ次回ノ會議ハ日本全權委員ニ

Q160

於テ右回答書ヲ考究シ討議ヲ開始スルノ準備ヲ整ヘタル旨ヲ露國全權委員ニ通知シタルトキ之ヲ開クヘキコトニ決定セリ而シテ右會議ハ本日午後三時若クハ明日午後三時ニ開カルヘキ筈ナリ(原文ハ附屬書第二號)

小村男 此機ニ於テ一言スヘキ事アリ貴全權委員等ノ了知セララル、如ク當地ニハ各種ノ新聞記者集合シテ種々ノ報道ヲ爲シ或ハ全然想像ニ出テタル捏造說ヲ事實ヲシク報スルモノアリ故ニ新聞紙ニ公表スヘキモノハ双方互ニ協議ノ上之ヲ決定シ而シテ後發表スルノ制ヲ設ケタル次第ニシテコハ最モ事宜ニ適シタルモノナリ然ルニ過日來ノ新聞紙ヲ見ルニ此ノ會場ニ於テ双方間ニ協定シテ發表スルコト、爲シタル以外ノ事實多ク新聞紙ニ洩ル、ノ觀アリ斯ノ如キハ當初此ノ談判ニ關シテハ互ニ秘密ヲ守ルヘキコトヲ協定シタル主旨ニ反セリ故ニ今後相互ノ間尙一層注意シテ堅ク秘密ヲ守ルコトニ爲サンコトヲ欲ス

「ウヰッテ氏 然リ彼等新聞記者ハ貴方ヨリ提出セラレタル條件ヲ殆ト盡ク公表セリ思フニ現在ノ如キ状態ニ在リテ新聞記者等カ議事ノ秘密ヲ探知スルヲ防クハ甚タ難事ナリ彼等通信員中ニハ本員ノ久シキ以前ヨリ知レルモノモ數名アリ其ノ中ノ一人ニシテ其ノ爲人ハ甚タ高尚ニ且信用ス可キモノナルカ其ノ者ノ談ニ據レハ通信員等ハ本員等カ貴方ノ條件ニ對シ爲サントスル回答案ヲ草シ居タリト云フ又貴方ヨリ提出セラレタル條件モ本員等カ此處ニ於テ貴方ヨリ之ヲ受領スル以前已ニ通信員等ハ其ノ大要ヲ知り居リタリ是レ蓋シ東京ニ於ケル通信員ヨリ聞知セルモノナラン彼等ハ

0161



此等東京ヨリノ通信及歐洲新聞紙ノ口氣等ニヨリ種々ノ想像ヲ逞クスルモノニシテ之ヲ止ムルハ不可能ノ事ナリ本員ノ所見ニテハ之ニ處スル最良ノ方法ハ一層精細ニ會議ノ事實ヲ公ニスルニ在リ就テハ寧ロ講和條件及露國ノ回答ヲ公表シテハ如何然ラスンハ新聞記者等ハ多々益捏造說ヲ流布シ世人ハ多々益惑ハサレン今日迄ハ我方ニ於テハ何人モ談判ノ詳細ヲ泄シタルモノナク貴方ニ於テモ亦無論之レ無キコトヲ確信ス

小村男 新聞記者等カ想像ヲ逞クスルコトヲ止メント云フニアラス只談判ニ關スル消息ノ妄リニ洩ル、形跡アルヲ以テ双方ニ於テ協定シタル以上ノ事實ヲ洩スコトナキ様互ニ注意センコトヲ希望ストノ趣意ナリ

「ウ井ッテ」氏 我方ニ於テハ何人モ約束以外ノ事實ヲ洩スモノナキハ之ヲ保障スヘシ又貴方ニ於テモ洩スモノナキハ本員ノ確信スル所ナリ

俎午後三時再ヒ此處ニ集ルコト、シテ散會セム其ノ場合貴方ノ都合ニヨリ更ニ會見ヲ延期スルヤ否ヤヲ決スルコト、心得ヘシ何レニシテモ本員等ハ午後三時ニ此處ニ來ラム

小村男 午後三時ニ會議ヲ開クヤ否ヤハ可成速ニ貴方ニ通知セム

「ウ井ッテ」氏 否、只若シ今日ノ午後會議ヲ開カサルコト、決セラレナハ可成速ニ通知セラレタシ其通知ナキ限リハ三時ニ會見スルモノト心得待チ居ラム

小村男 承知セリ

(右ニテ休會時ニ午前十時三十分)

午後三時七分再開

小村男 今朝受領シタル貴方ノ回答ハ本員等之ヲ慎重ニ攻究シタリ之ヨリ前ニ協定シ置キタル如ク各條ニ就キ討議ヲ行ハントス

「ウヰッテ」氏 承知セリ

小村男 第一條ニ就キ一ノ修正案ヲ提出セム

(トテ左ノ英文案ヲ提出ス「ナポコフ」書記官之ヲ露譯シテ「ウヰッテ」氏ニ説明ス)

### 第一條修正案

第一條 露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ約スヘシ而シテ上記約束ノ下ニ於テ露西亞國及露西亞國臣民ハ他ノ諸外國及其ノ臣民又ハ人民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘキハ勿論ナリ尙又日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ措置ハ互ニ之ヲ執ラサルヘキコト、知ルヘシ(原文ハ附屬書

### 第三號

「ウヰッテ」氏 貴案ヲ閱スルニ我回答案ノ趣意ト異ナル處ハ只二點アルモノノ如シ其ノ

一ハ露韓間ノ國境ニ於テ露國若クハ韓國ノ領土ヲ侵迫スルカ如キ軍事上措置ヲ執ラサルコトヲ互ニ約スルコトニシテ其ノ二ハ韓國皇帝ノ主權ヲ侵害セサルコトノ條件ヲ除カレタルコトナリ此ノ第一ハ貴方ノ案理由アリ軍事上措置ノ禁止ヲ相互的ニ爲スコトハ公平ナルヲ以テ之ヲ承諾スヘシ只露國ノ方ニ於テ現ニ韓國國境附近ニ堡壘ヲ有セルモノアラハ之カ武装ヲ解除スルコトハ爲シ難シ本員ハ韓國國境上ニ堡壘ノ存在セルヤ否ヤヲ知ラスト雖若シ存在セルニ於テハ本條ノ約束ヲ以テ之カ武装ヲ解除セシムルコト能ハス即チ既ニ存在スル要塞又ハ堡壘ハ其ノ武装ノ解除ヲ要セサルコトヲ條件トシテ日本ノ對案ニ同意セム

第二ハ韓國皇帝ノ主權ヲ尊重スルノ主意ヲ明ニスルモノナリコハ實際上ノ問題ニアラスシテ主義即チ國際上ノ主義ノ問題ナリ本員ノ意見ニテハ若シ本條中ニ於テ此ノ主義ヲ明言シ置カサルトキハ各國ノ反對ヲ喚起スルコト、ナラシ本員ハ腹藏ナク云ハン此ノ事タル實際上ノ利害ニハ全ク關係ナキコトニシテ日本モ露國モ之ヲ明言スルコトニヨリ何等利害ノ影響ヲ受クルモノニアラス只此ノ明言ヲ缺クカ爲メ日露兩國ノ約束ヲ以テ一獨立國ヲ亡ホスカ如キコトヲ爲スノ觀ヲ與フルハ好マシカラス若シ爾カスルニ於テハ他ノ列國ノ抗議ヲ招クコト、ナラン

小村男 第一點タル國境ニ於テ領土ノ安全ヲ侵迫スヘキ措置ヲ避クルコトニ關シ我方ノ旨意トスル處ハ主トシテ將來ニ對スルモノナリ露韓間ノ國境ニ於ケル韓國ノ方面ニハ勿論何等堡壘アルナキハ爰ニ之ヲ確言スルコトヲ得露國ノ方ニモ露韓間ノ國境

ナル豆滿江左岸ニハ永久的堡壘アルナシ然レトモ今ヤ戰時ナルカ故ニ或ハ一時的堡壘ヲ臨時ニ築造シタルモノアルモ知ルヘカラス斯ノ如キハ之ヲ取除カンコトヲ要ス  
 「ウヰヰッテ」氏 本員ノ言フ所ハ一時的堡壘ニ非スソハ勿論取除クヘキモノナリ只戰時以前ニ築造セラレ今尙現存スル永久的堡壘アラハソハ其ノ備存セシムヘシト云フノ義ナリ

小村男 然ラハ可ナリ

「ウヰヰッテ」氏 第二點ハ國際的主義ノ問題ニシテ實際上何等價値ナキモ主義上ヨリシテ此ノ明言ヲ除クハ日露双方ニ取リテ注意ヲ缺ケルコトナラン

小村男 此ノ點ニ付テ我方ノ主意ハ韓國ノ事ニ關シ將來日露兩國間ニ何等誤解ヲ生スルコトヲ充分ニ豫防スルコト最モ必要ナリト認ムルニアリ隨テ此際露國ニ於テ日本カ韓國ニ於テ充分ニ自由行動ヲ取リ得ルコトヲ承認センコトヲ緊要トス此ノ事ヨリシテ列國トノ關係上將來日本ノ行爲ニ付列國ト日本トノ間ニ如何ナル事ヲ生スヘキヤハ日本ト列國トノ間ニミ關係ズルコトニシテ爰ニ論スヘキ限ニ非ス此ノ處ニテハ日本ノ韓國ニ於ケル自由行動權ヲ露國ニ於テ承認センコトヲ主トスルナリ此ノ點ハ日本ニ於テ最モ重ヲ置ク所ナルカ故ニ露國ノ實際ノ利害ニ關係アラハ知ラス若シ果シテ貴說ノ如ク實際上ノ價値毫モ無之ニ於テハ韓國皇帝ノ主權云々ノ字句ハ之ヲ削除スルコトニ同意セラレタシ此ノ事ヲ主張スルハ我方ニ取リテ絶對的ニ必要ナリ  
 「ウヰヰッテ」氏 本員ハ全ク腹藏ナク云ハン本員等ハ此ノ字句ニ付如何ナル利害ヲモ有セ

0165

ス日本カ韓國ニ於テ如何ナル行動ヲ執ルモ我方ハ毫モ之ヲ妨クル意志ナキノミナラ  
ス今回ノ條約一旦締結セラレ兩國間ニ親密ノ關係ヲ設定スルコトヲ得ハ寧ロ進シテ  
我方ヨリ日本ノ行動ヲ贊助保障セント迄欲スルナリ然レトモ列國ニ對スル形式上此  
ノ會合ニ於テ一國ヲ處分シ了ルカ如キ約束ヲ爲スハ穩當ナラスト思考ス實際ハ日本  
ニ於テ韓國ヲ自由ニ處分シ得ルノ他位ニ在リ然レトモ同國皇帝ノ主權ヲ尊重スルコ  
トヲ一言シ置カサルハ不可ナラシ

小村男 若シ此ノ會合ニ於テ列國トノ關係上日本ト露國トカ韓國ノ主權ヲ侵害スヘシ  
トノコトヲ協定スルニ於テハ自ラ別問題ナルモ爰ニ論スルハ此ノ如キ事ニ非ス即チ  
日露間ニ約束セントスルコトハ韓國ノ主權ヲ認ムルヤ否ヤノ問題ニアラサルカ故ニ  
之ニ對シテ列國ヨリ故障ノ起ルヘキ筈ナキナリ目下ノ主旨ハ韓國ニ於ケル日露兩國  
ノ關係ヲ此ノ際明白ニ爲シ置カントスルニ在リ而シテコレハ兩國ニ取リテ必要ト認  
ムルカ故ニ此ノ點ハ我案ニ同意セラレンコトヲ切望ス

(此間安達氏ノ通辯アリウ井ッテ氏熱心ニ耳ヲ傾ケテ之ヲ聽ケリ)  
小村男 又列國ノ故障云々ノコトハ今後日本カ如何ナルコトヲ爲スヤニ存スルコトニ  
シテ露國ニハ關係ナキコトナリ

(安達氏ノ通辯ニ加ヘテナボコフ氏ウ井ッテ氏ニ説キシモウ井ッテ氏ハ予ハ了解セ  
スト獨語セリ)

小村男 故ニ過刻ヨリウ井ッテ氏ノ幾回カ明言セラレタル如ク事實上露國ノ利害ニ關

係ナシトノコトナレハ斯ル語句ハ之ヲ削ルコトニ同意アラシクコトヲ切望ス

「ローゼン」男 本員ハ小村男トウ井ッテ「氏」トノ談話ノ間ニ意思ノ充分疏通セサル所アリト信スウ井ッテ「氏」ノ意見ハ日本カ韓國ニ於テ自由行動權ヲ有スルハ勿論ノコトニシテ此ノ點ニ就キ一ノ疑問ヲ存セス

(次ニ「ローゼン」男ハ韓國皇帝ノ主權云々ニ關シテ説明ヲ試ミントシテ其ノ要點ヲ「ウ井ッテ」氏ニ質シ「ウ井ッテ」氏之ニ答ヘテ兩氏ノ間ニ久シキ露語ノ問答アリ其ノ大體ノ趣意ハ韓國ノ獨立ヲ侵害スルカ如キ約束ヲ避クルハ必要ナリト云フニ在リ)

「ローゼン」男 「ウ井ッテ」氏ノ趣意ハ實際全ク小村男ノ意見ト同様ナレトモ只之ヲ條約ノ一條トシテ書き下スニ當リ其ノ書方如何ニ付小村男ノ提議ニ満足セサル所アリ小村男ノ提議セラレタル條文案ヲ讀ムトキハ恰モ兩國ノ合意ヲ以テ韓國ノ獨立ヲ處分スルモノノ如ク感セシム然ルニ韓國ノ獨立ハ貴全權委員ト雖亦本員等ト雖之ヲ隨意ニ處分シ得ヘキ事柄ニハアラス

(此ノ間「ウ井ッテ」氏「ローゼン」男ニ私語シ「ローゼン」男ハ少シツ、説明セントシ談話混亂シテ要領ヲ得ス)

「ローゼン」男 「ウ井ッテ」氏ノ論旨ハ只吾人ハ一國ノ運命ヲ處分スルノ權利ヲ有セスト云フニ在リ而シテ此ノ事ハ此ノ條文ヲ書クニ當リ、、、、、小村男 本員ガ言ハント欲スルハ此ノ條文ニ於テハ主權ニ及ホス影響如何等ノ問題ニ關係スルコトナキヲ要スルナリ主權ノ問題ハ全然別事ナリ只此ノ第一條ニ於テ吾人

0167

ハ日露兩國間ニ將來起リ得ヘキ衝突ノ一切ノ原因ヲ全然排除シ置クコトヲ極メテ必要トスヘシ而シテ若シ今後日本カ韓國ニ於テ執ル所ノ行動如何ニツキ他ノ列國ヨリ何等故障ニテモ起ラハ是レ日本ノ獨リ關係スヘキコトニシテ露國ノ責任ト何等關係ナシ

「ウヰッテ」氏 實質上ニ於テハ双方ノ議論全ク一致セルヲ以テ其事ヲ會議錄ニ認メ置カハ可ナラン

小村男 本員等ノ言ハ無論會議錄ニ殘ラン「ウヰッテ」氏ハ實質上同一ナリト屢云ハルルモ氏ノ提議ノ如ク韓國ノ主權ヲ全然其儘ニ保續スルカ如キ主意ニハ斷然同意スルコト能ハス本員ノ言ハント欲スルハ日本ハ韓國ノ同意ヲ以テ種々ノ行動ヲ爲スニ於テ全然自由ナルコトヲ要スト云フニアリ抑モ韓國ノ主權ナルモノハ既ニ今日ト雖完全ナルモノニアラス日本ハ既ニ同國ト協約ヲ訂シ同國主權ノ一部ハ日本ニ委セラレ韓國ハ外交上日本ノ承諾ナクハ他國ト條約ヲ締結スルコト能ハサルノ地位ニ在リ貴全權委員ノ所論ハ一方ニ於テ日本ノ完全ナル自由行動ヲ認ムト言ハル、モ此ノ點ニ於テ其ノ認メタル自由ヲ制限セントセラル、コト、ナル

（「ウヰッテ」氏「ローゼン」男ニ私語ス其ノ大意ハ實質上日本ノ提議ニ同意スルモ只主權ノ事ニ關シ何事モ云ハサレハ誤解ヲ生スヘシト云フニ在リ）

「ローゼン」男 本員等ハ毫モ日本ノ自由行動ニ對シテ權利ヲ留保セントスルノ意思ヲ有セス此ノ事ハ日本ノ獨リ關係スヘキコトナリト言ハル、モ露國ノ側ヨリ見レハ露國

カ他ノ一國ノ主權ヲ侵害スルカ如キ意味ヲ有スル條約ヲ結フハ外觀上甚々好マシカ  
ラスト云フヘシ

小村男 此ノ點ハ日本ニ於テ非常ニ重大視スル所ニシテ本員等ハ我事業ニ累ヲ貽スカ  
如キ規定ニ同意スルコトハ斷シテ爲スコトヲ得ス

「ウヰッテ氏 國際法上ノ點ヨリ此ノ事ヲ見ハ其ノ結果如何若シ他日——數年ノ後——

別國カ露國ニ對シ露國ハ韓國ノ主權ヲ奪ヒ去ルカ如キコトニ同意セルヤ否ヤト問ハ  
レムニハ露國タルモノ如何ニ之ニ答フヘキカ

小村男 露國ニ於テ此ノ規定ニ同意シタルカ爲メ別國ヨリ此ノ如キ質問ヲ受ケナハ露  
國ハ只韓國ニ於ケル日本ノ自由行動ヲ認メタリト答ヘテ可ナリ

「ウヰッテ氏 本員ハ再ヒ腹藏ナク言ハン實際上我方ハ本件ニ付何等ノ利害ヲ有セス我  
方ハ韓國ノコト全ク日本ノ處置ニ一任スルヲ以テ此ノ事ハ實質上ノ問題ニアラス全  
ク形式上ノ問題ナリ故ニ若シ之ヲ條約ニ記入セサルニ於テハ之ヲ會議錄ニ掲載スル  
コト、爲シタシ此ノ事カ實質上ノ問題ニアラス純然タル形式上ノ問題タルコトハ双  
方同意セルモノト考フルヲ以テ何等カ一ノ形式ヲ以テ此ノ語句ヲ存シ置キタシ  
小村男 此ノ事ヲ以テ單ニ形式上ノ問題ナリト論セラル、コトハ屢々之ヲ聞キタリ然  
レトモ日本ニ取リテハ此事ハ非常ニ重キヲ措ク所ニシテ決シテ單ニ形式上ノミノコ  
トニアラス實際ノ利害ニ於テ重大ノ關係ヲ有スヘシ

「ウヰッテ氏 此ノ問題ニ關スル日本ノ地位ハ本員等ニ於テ能ク了解セリ今回ノ戰爭ハ



此ノ事ヨリ起リタルモノニシテ戦争ニ於ケル日本ノ今日迄ノ成行ハ既ニ吾人ノ見ル所ノ如クナル以上本員等ハ韓國ニ於ケル日本ノ行動ハ啻ニ日本ニ一任シテ毫モ關係セサル趣意ナルノミナラス尙今回ノ條約ニシテ幸ニ成立シ兩國ノ關係親密トナラハ日本ノ韓國ニ於ケル行動ハ却テ露國ニ於テ之ヲ贊助シ之ヲ保障セントスルモノナリ然レトモ條約ハ一旦成立シタル以上ハ之ヲ秘密ニ付スルコト能ハス必ス公然知ラルヘキモノナルヲ以テ其ノ締結スル條文ニ於テ決シテ第三國ヨリ非難セラレサル丈ケノコトハ之ヲ爲シ置カサルヘカラス今若シ露國ハ日本トノ條約ニ於テ此ノ如キコトニ同意シ調印シタリトセハ露國ハ其ノ之ニ關スル地位ヲ如何ニ説明スヘキ乎故ニ日本今後ノ處置ニシテ韓國主權ニ影響ヲ及ホスヘキ事柄ハ韓國ノ同意ヲ經テ爲ストカ何レカノ主意ヲ明ニナシ置カンコトヲ欲ス

小村男 若シ貴方ノ意見タル日本カ將來韓國ニ於テ執ル所ノ措置ニシテ韓國ノ主權ニ關係スルモノニ就テハ韓國政府ノ贊同ヲ得テ爲スヘシトノコト及露國ハ韓國ニ於テ日本ニ行動ノ自由ヲ與フルノミナラス將來日本カ執ル所ノ措置ニ對シ贊助ヲ與フヘシトノ意ヲ會議錄ニ留メ置カンコトナラハ本員ニ於テモ之ニ同意セム

「ウヰッテ氏 此事ハ二點ニ分チテ論セサルヘカラス第一ニ日本ノ韓國ニ於テ執ル所ノ措置ニシテ韓國ノ主權ニ關係スルモノハ韓國ト合意ノ上ニ行フトノコトハ必ス之ヲ會議錄ニ記載シ置カンコトヲ欲ス第二ノ露國カ贊助ヲ與フル云々ノコトハ一般ニ關スルコトナリコハ全ク予一己ノ見ヲ以テ全體ニ涉リテ爲サントスル議論ニシテ幸ニ

本條約ノ調印ヲ見鞏固ナル關係成立セハ之ヲ實行スル上ニ於テ互ニ援助ヲナサント云フ義ナリ蓋シ貴我双方ノ地位ヲ判然劃定シ而シテ之カ實行ニ於テ互ニ誠實ニカヲ致スハ極メテ必要ノコトニシテ之ヲ缺クトキハ大ナル禍ヲ爲スコトアリ今回ノ戰爭ノ如キ其ノ明證ナリ今回ノ戰爭タル日露兩國ニ取り厭フヘキ慘禍ナリ予ハ日本ニ取リテモ慘禍ト云ハン何トナレハタトヒ貴國ハ戰爭ニ於テ今日迄著々成効セラレタルモ之カ爲メ有形無形共ニ受ケラレタル損害ハ極メテ大ナレハナリ此ノ慘禍ヲ避クル爲メ吾人ハ互ニ協商ヲ遂ケ第一ニ双方ノ自負心ヲ損傷スルコトヲ避ケ第二ニ双方ニ於テ自ラ條約ヲ守ルノミナラス若シ他國カ此ノ條約ヲ犯サントセハ互ニ援助ヲ與ヘ之ヲ防カント云フニ在リ是レ一般ニ關スルコトナリ

小村男 貴意ハ明ニ之ヲ了解セリ先ツ此ノ第一點ヨリ定ムルコト、セム此ノ主意ヲ會議錄ニ留ムルコトハ本員ニ於テ異議ナク我方ニ於テ韓國ニ對シ行動セントスルニ付テハ常ニ此ノ主意ヲ以テスルナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ其ノ趣意ヲ條約ニ掲ケ置キタシ

小村男 否、會議錄ニ留ムルコトハ同意スルモ條約ニ上スコトハ絶對ニ不同意ナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ會議錄ニ掲クルコトニ同意セム然レトモ會議錄ニハ明ニ之ヲ記入シテ他日露國カ此ノ事ヨリ他國ノ利害ニ影響スルノ規定ニ同意シタル故ヲ以テ他國ヨリ説明ヲ求メラレタル場合ニ之カ説明トシテ會議錄ヲ一見セハ直ニ他ノ了解シ得ル如ク爲シ置カントヲ希望ス

0171

小村男 承知セリ然ラハ之ヨリ此ノ會議錄ニ記入スル語句ノ起草ニ移ラム

「ウヰッテ」氏 一時休憩シテ起草セシメンカ

小村男 否、着席ノ儘ニテ爲サハ如何

「ウヰッテ」氏 然ラハ左様ニ取計ハム

小村男 双方ノ書記官ヲシテ協同起草セシメム

（書記官文案ヲ草シ始メ約二十分ノ後了リテ之ヲ朗讀シ兩國全權委員同意決定ス即チ左ノ如シ）

日本國全權委員ハ日本國カ將來韓國ニ於テ執ルコトヲ必要ト認ムル措置ニシテ同國ノ主權ヲ侵害スヘキモノハ韓國政府ト合意ノ上之ヲ執ルヘキコトヲ茲ニ聲明ス  
（原文ハ附屬書第四號）

「ウヰッテ」氏 貴方ノ第一條對案ニ於テ當初ハ心付カサリシカ今ヤ更ニ一點我方ノ趣意ト異ナリタル所アルヲ發見セリソハ露國及露國臣民カ韓國ニ於テ他國及他國臣民ト同様ノ權利ヲ享受スルコトヲ規定スル處ニ於テ之ニ「上記約束ノ下ニ於テナル一句ノ挿入シアルコト是ナリ此ノ文句ハ獨リ露國臣民ノ享受スル權利ニ對シテノミ一ノ制限ヲ加ヘントスルモノ、如クニ解セラル、ヲ以テ同意スルコト能ハス若シ此ノ事カ各國共同様ナルニ於テハ同意スルニ躊躇セサルモ斯ノ如クシハ獨リ露國ノミ不利益ノ地位ニ立ツコト、ナルヲ以テ之ヲ除去セラレンコトヲ希望ス  
小村男 此ノ事ハ獨リ露國人ノミニ對シテ施サント云フコトニアラス他國人ニ對シテ

モ無論同様ナリ

「ウヰッテ」氏 爾カ云ハル、モ此ノ書方ニテハ露國人ノミニ加ヘラレタル制限ト解セラ  
ル故ニ全然之ヲ除去セラレンコトヲ欲ス然レトモ若シ之ヲ存シ置クノ必要アラハ此  
ノ制限ハ均シク各國人ニ係ル如ク修正セラレンコトヲ希望ス

小村男 此ノ條項ハ各國人ニ係ルモノニシテ文理上貴全權委員ノ解セラル、カ如クニ  
ハ見ヘス

「ウヰッテ」氏 之ヲ各國ト同様ニ解セラル、カ如ク修正セラル、ニ於テハ同意スヘシ其  
ノ書方ハ種ヤアルヘシ要スルニ各國共ニ本條ノ冒頭ニ認メタル規定ノ制限ヲ受クル  
モノタルコトヲ明記シ置ケハ可ナリ

小村男 他國ノ權利即チ韓國ト外國ニ關スル事項ヲ本席ニ於テ貴我兩全權委員ノ間ニ  
定ムルカ如キハ爲シ能ハサルノコトナリ趣意ニ於テハ素ヨリ露國モ各國モ同様ナル  
モ其ノ事ヲ茲ニ定ムルコトハ不可能ナルヘシ

「ウヰッテ」氏 然レトモ、、、、、  
小村男 今協定セントスルハ日露兩國間ノ事ニ止マリ他國ニ關スルコトヲ此處ニテ決  
定スル能ハス故ニ我案ノ如クスルヲ必要トスヘシ

「ウヰッテ」氏 貴方ノ案ニテハ貴說ノ如ク露國カ各國ト同様ニナルモノナルコトハ認メ  
得ラレス各國ハ日本ノ爲ス所如何ニ拘ハラス各自ラ有スル所ノ權利アルヘシ

小村男 將來韓國ニ於ケル列國ノ關係ニ就テハ各國ハ日本カ韓國ニ於テ執ル所ノ措置

0173

ハ均シク之ヲ承認スルコト、ナルヘシ故ニ列國カ韓國ニ於テ有スル權利ハ本條文ノ  
冒頭ニ云ヘル條件ニ服従スルコト、ナルヘク隨テ露國モ列國モ同一ノ取扱ニ歸スヘ  
シ然レトモ此處ニテ約束スルコトハ日露間ノコトニシテ列國ノコトハ日本トノ間ノ  
關係トナル此ノ兩關係ハ全ク二様ノコトニシテ混同シテ之ヲ論スヘカラス外國ニ關  
スルコトヲ此處ニテ定ムルハ爲シ能ハサルノコトナリ

「ウ井ッテ」氏 貴見ニ付キテハ至極同感ナリ然レトモ此ノ書方ニテハ今述ヘラル、カ如  
キ趣意ハ認メ得ラレス故ニ其ノ趣意ニ解セラル、如ク修正セラレタシ然ラズンハ本  
員ハ之ニ同意スルコト能ハズ

小村男 曩ニモ述ヘタル如ク此處ニテ列國ヲ束縛スルカ如キ規定ヲ設クルハ爲シ能ハ  
サルコトナリ故ニ斯ノ如ク認ムルヨリ他ニ方法ナシ

「ウ井ッテ」氏 然レトモ若シ日本カ韓國ニ於テ執ルヘキ措置ニシテ他國ノ之ヲ承認セサ  
ルモノアラハ如何其ノ場合ニハ露國獨リ此等措置ニ羈束セラル、ノ地位ニ立チ他國  
ハ羈束ヲ受ケスシテ諸種ノ權利ヲ有スルコト、ナルヘシ是レ本員等ノ承諾スル能ハ  
サル所ナリ

小村男 他國カ日本ノ措置ヲ承認スルヤ否ヤハ別問題ニシテ爰ニ論スヘキコトニアラ  
ス

「ウ井ッテ」氏 要スルニ双方ノ趣意ハ同一ニシテ其ノ異ナル所ハ書方如何ニ在ルヲ以テ  
双方ノ書記官協同シテ更ニ文案ヲ作り之ニ兩全權委員同意スルコト、爲サハ可ナラ

△  
(此時双方ヨリ種ヤノ文案ヲ出ス)

小村男 此ノ「上記約束ノ下ニ於テ」ナル字句ヲ文章ノ終リニ移スコト、セハ「ウヰッテ」氏

ノ云ハル、如ク獨リ露國ニノミ係ルコト、解セラル、ノ憂ナカラム

(此ノ時「ウヰッテ」氏「ローゼン」男其ノ他露國書記官間ニテ此ノ文句ハ全ク無用ナリ何故ニ強テ挿入セントスルヤト私語セリ)

小村男 本員ノ述ヘタル如クセハ明了トナルナラム

「ウヰッテ」氏 趣意ニ於テハ異議ナキモ斯ノ如クスルトキハ尙ホ疑ヲ存スルコト、ナル  
小村男 日本政府ハ韓國ニ於テ露國臣民ニ對シ區別的取扱ヲ與フルノ意思ハ毫モ之レアル無シ前ニ云フカ如ク此ノ文句ヲ終リニ置カハ其ノ趣意明了トナルヲ以テ斯クセシコトヲ欲ス

「ウヰッテ」氏 斯ノ如クスルモ尙明瞭ナリト云フヲ得ス

小村男 貴説甚タ解シ難シ露國カ既ニ冒頭ノ趣意ヲ認メ承諾シタル以上ハ露國及露國臣民ノ享有スル權利ニ對シ此ノ第一ノ約束ヨリ生スル羈束ノ加ヘラル、コトヲ明言フルハ當然ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ之ニ同意スルコト能ハス日本ニ於テ如何ナル措置ヲ執ルモ之ニ對シテ露國ハ何等故障ヲ唱フルコトナシ然レトモ露國ノミ他ノ諸外國ニ比シ不利益ノ地位ニ立ツノ虞アル書方ニテハ到底同意スルコト能ハサルヘシ

小村男 要スルニ區別的取扱ヲナサンコトヲ痛ク危惧セララル、カ如キヲ以テ此ノ文句ハ之ヲ修正シ「他國及他國臣民又ハ人民」ノ前ニ「商業及居住ニ關シナル一句ヲ加フルコト、セム此ノ如クセハ双方共ニ趣意ヲ達スルヲ以テ異議ナカラム

（此ノ時「ローゼン」男小村男ノ提議ヲ「ウヰッテ」氏ニ露語ヲ以テ説明セントシテ「商業及居住ニ關シト云フヤ否ヤ」ウヰッテ氏ハ頗ル不滿ノ顔色ニテ然ラハ航海業ハ如何治外法權ハ如何ナト頻ニ「ローゼン」男ニ語レリ）

「ローゼン」男 貴方ノ提議ニテハ甚ダ不充分ナル點アリ故ニ各國同様前記約束ノ範圍内ニ於テ一切ノ權利ヲ享有スルコト、ナサ、レハ不可ナリ（註、各國モ露國ト同一ノ約束ニ服從セシメ而シテ露國ハ之ト同シク一切ノ權利ヲ享有スルノ意ナリ）

「ウヰッテ」氏 要スルニ最惠國ノ待遇ヲ受レハ可ナリ此ノ事タル双方異議ナキ所ニシテ我方ノ書方ニテ充分明了ナリ之ニ同意セラレサルハ如何ナル理由ニ因ルヤ

小村男 然リ最惠國ノ權利ヲ享有セシムルコトニ於テ毫モ異議アルナシ然レトモソハ日本ノ執ル所ノ措置ニ服從シテノ上ナルコトヲ明ニセント欲スルナリ「商業及居住ニ關シト爲サハ此ノ如クナルヘシ

「ローゼン」男 爾カセンニハ其ノ以外ノコトハ最惠國ト同等ノ取扱ヲ受ケサルコト、ナルニアラスヤ

「ウヰッテ」氏 貴説ヲ聞クニ隨ヒ當初ハ單ニ字句ニ關スル問題ナリト思ヒ居リタルモ然ラスシテ其ノ他實際上ノ問題モ之レアルモノ、如シ果シテ然ルヤ否ヤヲ知ラント欲

ス貴全權委員ハ曩ニ露國人ハ決シテ他國人ト異ナリタル待遇ヲ受クルコト無キコトヲ明言セラレタリ然ラハ其ノ通りニ認メナハ可ナルニ何故之ニ同意セラレサルヤ要スルニ趣意ニ様ニ見ユ若シ露人ノ取扱全ク他國人ト同等ナルニ於テハ其ノ通りニ認メテ然ルヘシ若シ其ノ通りニ認ムルコト能ハストナラハ是レ取扱ノ異ナル場合アルコトヲ意味スルナラン然ラハ又更ニ何故ニ斯ル場合ヲ取除キ置クコトヲ得サルヤヲ論スヘシ

小村男 然ラス今韓國ニ於テ他國人種々ノ權利ヲ有スコハ皆日本カ韓國ニ於テ執ルヘキ措置ニ服從シテノコトナリ露國臣民カ韓國ニテ各種ノ權利ヲ享有スルコトモ亦同様ノ制限ニ服從スルコトヲ條件トセサルヘカラス即チ政治上外交上日本ノ執ル措置ニ服從スルノ條件ヲ明ニスルコトヲ必要トス

(此ノ間又露國全權ノ問ニ私語ヲ始ムウヰヰテ氏ローゼン男ニ對シ稅率及居住ノ件ノ如キハ如何シテモ各國民ト露國民ト同等ナラサルヘカラスト云ヒローゼン男ハ更ニ調停的ニ説明シテ此條項ノ冒頭ノコトハ政治上ニ關スルコトニシテ第二點ニ於テハ此ノ第一點ノ條件ニ服從スヘキコトヲ明ニセントスルモノニシテ此ノ規定ナクシハ政治上ニモ及フコトヲ日本全權委員ニ於テ懸念セルナラント云フウヰヰテ氏ハ之ニ對シ政治上ノコトニテモ第三國カ或權利ヲ得ハ露國ハ之ニ均霑スルコト能ハサル場合生スヘキガ如何ト云ヒ双方久シキニ涉リ私議セリ此ノ會談ノ間ローゼン男ハ時々ウヰヰテ氏ノ所論ヲ小村男ニ説明セントシテ屢言ヲ發シタルモ其



ノ説明ノ了ラサルニ先チ「ウヰッテ氏ヨリ更ニ質問又ハ議論ヲ注カレ稍秩序ヲ失セントスルノ觀アリキ」

「ローゼン男 何故此ノ條件ヲ露國人民ニノミ明ニ加ヘントセラル、ヤ其ノ理由ヲ聞カント欲ス」

小村男 其ノ故ハ今日茲ニ議論スルコトハ日露兩國間ノ事ナレハナリ既ニ屢次述ヘタル如ク他國ニ關スルコトヲ此處ニテ決スルコト能ハサレハナリ

「ローゼン男 如何ニシテモ此ノ書方ニテハ露國人ノミ不利益ノ地位ニ立ツコトアルカ如ク解セラル」

小村男 然ラハ此ノ條件的文句ヲ取去リ夫レト同時ニ露國及露國臣民ハ云ヤトアル露國ナル語ヲ除キ單ニ露國臣民トシ他ノ諸外國云々ノ處モ亦諸外國ナル語ヲ除キテ只諸外國ノ臣民又ハ人民ナル語ニ改メナハ貴方ノ趣意ニ合セム

(「ローゼン男之ヲ「ウヰッテ氏ニ説ク「ウヰッテ氏ハ此ノ説明ハ耳ニセサリシモノ如ク

小村「ローゼン」兩男ノ談話中頻ニ「ナボコフ」及「フランソン」兩氏ト文句ヲ案シ居レリ)

「ウヰッテ氏 此ノ如クセンヨリモ此ノ最初ノ二文章ヲ一ノ文章トナシ句讀ヲ去ラハ兩個ノ規定一文中ニ集リ貴方ノ云ハル、條件附權利享有ノ趣意明トナルナラム

小村男 「ウヰッテ氏」ノ考案ノ如キハ實際上今迄ノ議論ト何等異ナリタルコトナシト認ム

「ウヰッテ氏 否、大ナル相違アリ是ニテ双方ノ趣意相達スルコト、認ム然ルニ右ハ以前

ノ議論ト毫モ異ナラスト言ハル、ハ解シ難シ

小村男 否、少シモ異ナルコトナシ抑モ今論シツ、アル事柄ノ第一點ハ政治上、外交上ノコトニシテ第二點ハ商業上ノ問題ノコトナリ此ノ第二點ノコトカ明ニ第一點ノ制限ノ下ニ立ツコトヲ明ニセサルヘカラス

「ウヰッテ」氏 商業上ノコトノミト解セラル、ハ不可ナリ商業以外ニ多大ノ權利アリ領事官ノコト、法權ノコトハ其ノ大ナルモノナリ代理公使ノ權限モ亦他國ト同様ナラサルヘカラス單ニ商業上ノコト、此等ノコト、ハ大ナル差異アリ抑モ今回ノ談判ハ一時的ノ平和ニアラスシテ永久鞏固ノ平和ヲ設定スルコトヲ目的トスルモノナリ露國ハ日本ノ韓國ニ於ケル充分ナル自由行動ヲ認メ之ニ就テハ若シ日本ニ於テ要スルコトアラハ露國ハ贊助及保障ヲ與ヘントスル程ナリ故ニ露國カ韓國ニ於テ享有スル權利ハ日本ノ行動ニヨリ制限セラルノコトハ勿論異議ナキ所ニシテ此ノ上議論スル餘地ナキモ只他ノ外國ヨリモ不利益ナル地位ニ在ルコト能ハス此ノ主意ヲ明ニナシ置クコト兩國永遠ノ平和ノ爲メ甚タ必要ト考フルナリ

小村男 本員ニ於テモ亦若シ此ノ條約締結サレナハ此ノ上兩國間ニ一切何等ノ誤解ナカラシコトヲ欲ス是レ本員カ此ノ條件ヲ主張スル所以ナリ蓋シ日本ハ露國臣民カ韓國ニ於テ他ノ臣民ノ有スル一切ノ權利ヲ享有スルコトヲ承諾スルモ此等權利ノ享有カ政治上、外交上ノコトニ及フト解セラレシニハ甚シキ誤解ナルヲ以テ之ヲ明ニ豫防シ置カンコトヲ要ス

「ローゼン」男 要スルニ問題ハ日本ハ如何ナル事項ニ就テモ露國人民ヲ他ト區別スル意ナキヤ否ヤニ在リ

小村男 素ヨリ區別スルノ意ナシ若シ其ノ事ニ關シ疑懼ヲ有セラル、ニ於テハ之ヲ會議録中ニ掲ケテ明ニナスコト、セム

「ウ井」テ氏 第一ニ日本カ行動ノ自由ヲ得第二ニ露國カ他國ト同等ニ立ツト云フコトニ、ハ、ハ、ハ、ハ、

小村男 「ウ井」テ氏ノ議論ノ如キハ第一點ニ於テ日本ノ自由行動ヲ認メツ、第二點ニ於テ之ヲ取り去ラントスルモノナリ

「ウ井」テ氏 否左ニアラス全ク反對ニシテ日本ニ充分ノ自由行動ヲ認ムルノミナラス却テ進テ之ヲ贊助シ之ヲ保障セントス

小村男 果シテ此ノ如ク日本ヲ贊助スルノ意アラハ何故此ノ場合ニ我提案通り同意シ以テ日本ヲ贊助スルコトニ躊躇セラル、カ

（「ウ井」テ氏ハ之ニ答ヘス尙頻ニ何人ニ對シテトモナク前同様ノ議論ヲ喃ヤセリ尤モ時既ニ夜ニ入ラントシ談話ノ順序モ亂レ露國側ニ於テハ書記官ニ至ル迄種々ノ私談ヲ爲シ容易ニ纏ルノ模様ナシ茲ニ於テ）

小村男 最早時刻モ大ニ進ミタレハ今日ハ此儘ニシテ散會シ尙明日午後三時ヨリ開會シ更ニ引續キ本問題ヲ議セム

「ウ井」テ氏 承知セリ扱今日ノ議事經過ヲ新聞紙ニ報スル通知案ハ如何ニスベキカ本

日午後講和條件ノ各條ノ討議ニ移リ先ツ韓國問題ニ付討議シ七時迄議シタルモ未タ結局ヲ見スシテ散會シ明日午後三時ヨリ引續キ同問題ヲ議スル筈ナリト爲スヘキカ  
小村男 否韓國問題云々ト明ニ認メテ公表スルコトハ我方ニ於テ同意スルコト能ハス  
只講和條件各條ノ討議ニ入りタリト云フコトニスヘシ

「ウヰッテ氏 双方ノ同意ヲ要スルヲ以テ貴方ニ於テ爾カ云ハル、ニ於テハ本員等ハ之ニ從フノ外ナシ然レトモソレニテハ新聞通信員ハ大ニ不満足ヲ唱フルナラン  
小村男 新聞記者ノ不満足ハ顧ミル能ハス何トナレハ問題ノ種類ヲ明言セサルコトハ我方ニ取り絶對的ニ必要ナレハナリ依テ左ノ如クナサム

(トテ新聞通知案ヲ讀ム)

日本全權委員ハ其ノ講和條件ニ對スル露國回答ノ考究ヲ了シタルニ付講和會議ハ同條件ノ逐條討議ニ移ル爲メ午後三時ヲ以テ開會シ同七時散會セリ

明日ハ日曜日ニ付午前ハ會議ヲ開カス兩國全權委員ハ右討議繼續ノ爲メ午後三時再ヒ會見スヘシ(原文ハ附屬書第五號)

「ウヰッテ氏 如何様ニテモ同意スルノ外ナキカ斯ノ如クシハ新聞記者等ハ不満足ノ餘リ吾人ヲ食フニ至ルヤモ知レスト諧謔的ニ述ヘ一同大ニ笑フ)

(右ニテ散會時ニ午後六時三十分)

0181

第一號

1. Le premier article ne soulève pas d'objection. Le Gouvernement Impérial, reconnaissant que le Japon possède en Corée des intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, est prêt à s'engager à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne les mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il va sans dire que la Russie et les sujets russes jouiront de tous les droits qui appartiennent ou appartiendront aux autres Puissances étrangères et leurs ressortissants. Il est également entendu que la mise en vigueur par le Japon des mesures susmentionnées ne portera pas atteinte aux droits souverains de l'Empereur de Corée. En ce qui concerne particulièrement les mesures militaires, le Japon, dans le but d'éloigner toute cause de malentendu, s'abstiendra de prendre des mesures qui pourrait menacer la sécurité du territoire russe limitrophe de la Corée.

2. Le Gouvernement Impérial est prêt à accepter la première partie de cet article, et est disposé à faire évacuer par ses troupes la Manchurie simultanément avec l'évacuation des troupes Japonaises; les détails et termes d'évacuation pourraient être arrêtés ultérieurement. Quant à la dernière partie de cet article le Gouvernement Impérial est prêt à déclarer qu'il n'a aucune prétention à des privilèges territoriaux, concessions ou facilités exclusives qui seraient de nature à menacer les droits souverains de l'Empire de Chine et qui seraient incompatibles avec le principe d'égalité de droits. Le Gouvernement Impérial est disposé à donner à cet effet les garanties nécessaires. Ce principe de fond une fois établi, les Plénipotentiaires de Russie proposent aux Plénipotentiaires du Japon de préciser le désir du Gouvernement du Japon concernant cette partie de l'article 2, et ils déclarent que le Gouvernement Impérial est disposé à éliminer tout ce qui pourrait porter préjudice aux intérêts du Japon ou des autres Puissances. La seule entreprise privée russe en Manchurie ayant un caractère public est le chemin de fer de l'Est Chinois; l'examen des questions se rattachant à ce chemin de fer se trouve du reste spécialement traité dans d'autres articles.

3. Le Gouvernement Impérial est prêt à accepter cet article, mais il va sans dire que la Russie et les sujets russes conserveront dans ces parties de la Manchurie tous les droits qui y appartiennent ou appartiendront aux autres Puissances étrangères et à leurs ressortissants. Pour ce qui est des régions sur lesquelles s'étend le bail de la presqu'île de Liaotong la Russie est disposée à céder au Japon ses droits aux régions dont il s'agit. Cependant, vu les droits souverains de la Chine à ces régions et les traités passés à cet effet avec le Gouvernement de Chine une pareille cession ne pourrait se faire autrement qu'en vertu d'une entente avec cette dernière.

4. En accédant entièrement aux principes émis dans cet article, le Gouvernement Impérial déclare que si cette stipulation n'avait pas été insérée dans les conditions proposées par le Japon, la Russie se ferait un devoir de la proposer elle-même.

5. Les anciens droits de la Russie à l'île de Sakhaline existaient déjà à une époque où le Japon ne possédait, ou du moins n'exerçait, aucuns droits de propriété sur la majeure partie de cette île. D'un autre côté, Sakhaline n'est que la continuation naturelle des possessions russes en Asie, vu que cette île est séparée du continent par un détroit d'une très petite profondeur et d'une largeur de 7 verstes. En vertu de ces considérations la Russie ne saurait consentir à une cession de cette île, mais elle est en même temps toute disposée à reconnaître au Japon le droit d'exploiter largement les pêcheries maritimes et autres entreprises commerciales dans cette île. Les conditions d'une pareille exploitation pourraient faire l'objet d'un arrangement spécial.

6. Le Gouvernement Impérial n'aurait pas d'objections à cet article, mais vu les droits souverains de la Chine aux territoires énumérés, la Russie ne pourrait céder ses droits au Japon sans un accord préalable avec la Chine. Il va sans dire que les droits des particuliers dans toute la région sur laquelle s'étend le bail conclu entre la Russie et la Chine, devront rester intacts.

7. Le Gouvernement Impérial accepte en principe cet article, à la condition toutefois qu'il ne pourrait se dessaisir que de la partie du chemin de fer se trouvant actuellement occupée de fait par les troupes Japonaises. La station terminale du tronçon à céder dans ces conditions devra être déterminée d'un commun accord. Il est cependant indispensable d'avoir en vue que c'est à une compagnie privée que la concession pour construire et exploiter la ligne a été accordée par la Chine qui en conserve les droits souverains, et que l'occupation militaire ne devrait porter aucune atteinte aux droits de cette compagnie. Le Gouvernement Impérial est prêt à prendre sur lui de s'entendre avec la dite compagnie tout en autorisant le Gouvernement de Chine à user dès à présent du droit de racheter la ligne en question. La prime de rachat qui revient à la compagnie serait cédée au Japon.<sup>1)</sup>

8. Cet article ne soulève pas d'objections. La Compagnie du Chemin de fer se conformera strictement—en ce qui concerne l'exploitation de la ligne magistrale de la Manchourie ainsi que du tronçon de la branche sud-manchourienne qui restera en sa possession—aux termes de l'acte de la concession du 27 Août (8 Septembre)

1) En vertu du § 11 de l'acte du 27 Août (8 Septembre) 1896 concédant à la Banque Russo-Chinoise la construction du chemin de fer,—acte qui fut confirmé par la convention du 12 Juin 1898 pour la construction de la branche sud-manchourienne, le Gouvernement de Chine a le droit de racheter la ligne à l'expiration du terme de 36 ans après le jour de l'achèvement et de l'ouverture de la ligne.

dont le paragraphe 8 stipule que les troupes ainsi que le matériel de guerre russe qui seraient transportés sur la ligne, ne doivent pas subir d'arrêts sur le territoire chinois.

9. La Russie ne saurait consentir aux stipulations de cet article. Seuls les pays vaincus remboursent les frais de guerre, mais la Russie n'est pas vaincue. Un pays ne saurait se reconnaître comme tel, alors que son territoire a été à peine attaqué par l'ennemi. Quand même le Japon se serait emparé de toute la province Maritime de l'Amour, les forces vitales de la Russie ne s'en trouveraient nullement atteintes et elle continuerait la lutte. Dans le cas seulement où les Armées Japonaises victorieuses auraient envahi l'intérieur de la Russie la nation pourrait comprendre qu'on soulevât des questions de remboursement de frais de guerre. Les Plénipotentiaires de Russie croient devoir attirer l'attention des Plénipotentiaires du Japon sur le fait que même au Congrès de Paris qui a eu lieu après la prise de Sébastopol, les alliés n'ont pas cru possible de soulever la question d'un remboursement de frais de guerre. Ceux-ci ne sont remboursés que par les pays qui n'ont plus de moyens de continuer la guerre, ce qui n'est en aucune façon le cas de la Russie.

Mais tout en refusant de rembourser les frais de guerre, le Gouvernement Impérial reconnaîtra équitable d'indemniser le Japon de celles des dépenses qu'il aurait effectuées non pas pour la guerre elle-même et au préjudice de la Russie, mais pour le bien de ceux des russes qui ont souffert par le fait de la guerre. Telles sont les dépenses pour l'entretien des prisonniers de guerre, pour le soin des malades et autres.

10. La Russie ne saurait consentir à cette demande. Il paraît qu'il est difficile de trouver dans la pratique des relations internationales des précédents qui pourraient servir à l'appui d'une pareille exigence. En outre, cette demande ne s'accorde guère avec les intentions pacifiques qui devraient animer les deux parties négociantes. Les avantages matériels qui seraient acquis par le Japon si les navires russes se trouvant dans des ports neutres lui étaient remis, seraient comparativement minimes. Mais le consentement à une pareille clause serait incompatible avec la dignité de la Russie.

11. La Russie ne saurait consentir à un pareil engagement imposé par une Puissance Etrangère, car ce serait également incompatible avec sa dignité. Le Gouvernement Impérial se croit cependant à même de pouvoir déclarer qu'il n'entre pas dans ses vues, dans un avenir proche, d'entretenir dans les eaux du Pacifique des forces navales considérables.

12. La Russie serait prête à s'entendre avec le Japon pour concéder aux sujets japonais des droits de pêche sur les côtes des mers du Japon, d'Okhotsk et de Behring. Ces droits ne pourraient cependant s'étendre que sur les côtes des mers

六

elles-mêmes, sans toucher aux anses et fleuves. Il va sans dire que les droits déjà appartenant dans cette région à des sujets russes ou étrangers devraient rester en vigueur.

---

### 第二號

In the sitting of Saturday morning this August 12th, Their Excellencies Plenipotentiaries of Russia have handed their reply in writing to the note presented the day before yesterday by Their Excellencies Plenipotentiaries of Japan. It has been decided that the next Conference meet when Their Excellencies Plenipotentiaries of Japan notified that they have studied the document and are ready to continue the deliberation which will be held to-day at three o'clock or to-morrow afternoon same hour.

---

### 第三號

1. The Imperial Russian Government, recognizing that Japan possesses in Corea paramount political, military and economical interests, is ready to engage neither to obstruct nor interfere with the measures of guidance, protection and control which Japan will consider necessary to take in Corea. It is a matter of course that, subject to the above engagement, Russia and Russian subjects will enjoy all rights that belong or will belong to any other Powers and their subjects or citizens. It is further understood that in order to remove all causes of misunderstanding Japan and Russia will mutually abstain from taking the measures on the Russo-Corean frontier, which might menace the security of Russian and Corean territory.

---

### 第三號佛譯文

1. Le Gouvernement Impérial de Russie, reconnaissant que le Japon possède en Corée des intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, est prêt à s'engager à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne les mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il va sans dire que la Russie et les sujets russes jouiront, soumis à l'engagement ci-dessus, de tous les droits qui appartiennent ou appartiendront à d'autres Puissances quelconques et à leurs ressortissants. Il est, de plus, entendu que, dans le but d'éloigner toute cause de malentendu, le Japon et la Russie

0185



s'abstiendront mutuellement de prendre à la frontière russo-coréenne des mesures qui pourraient menacer la sécurité du territoire russe ou coréen.

---

第四號

Les Plénipotentiaires du Japon déclarent qu'il est entendu que les mesures que le Japon peut trouver nécessaire de prendre en Corée à l'avenir et qui portent atteinte à la souveraineté de ce pays seront prises d'accord avec le Gouvernement de Corée.

---

第五號

Les Plénipotentiaires Japonais ayant étudié la réponse russe à leurs conditions de paix, la Conférence s'est réunie de nouveau à trois heures de l'après-midi pour procéder à leurs discussion article par article. La séance a été levée à sept heures.

Demain, étant dimanche, il n'y aura pas de séance matinale, et les Plénipotentiaires se réuniront à trois heures de l'après-midi pour continuer leurs délibérations.